

1 ハンズオン 心臓 7月28日(土) 13:10-16:40 (3:30)

コース名：ベーシックFoCUS

心エコー検査の基本でもある、FoCUSで用いる3つのアプローチから得られる5つの基本断面の描出法について、健常者をモデルにした実技実習を行います。また、それぞれの基本断面を用いた病態の診断について、症例を供覧し読影法を伝授します。

- 5分 Introduction, 講師紹介, コースオリエンテーション
- 10分 <Technical Lecture> 基本断面の描出, プローブの操作法
- 10分 <Technical Lecture> 心窩部アプローチの描出法, 超音波解剖
- 20分 <Case Presentation> 心窩部アプローチ断面（IVC, 四腔断面）による各種病態の診断
- 30分 <Hands on> 心窩部アプローチによる断面描出
- 10分 <Technical Lecture> 傍胸骨アプローチの描出法, 超音波解剖
- 30分 <Hands on> 傍胸骨アプローチによる断面描出
- 5分 休憩
- 20分 <Case Presentation> 傍胸骨アプローチ断面（LAX, SAX）による各種病態の診断
- 10分 <Technical Lecture> 心尖部アプローチによる断面描出, 超音波解剖
- 30分 <Hands on> 心尖部アプローチによる断面描出
- 20分 <Case Presentation> 心尖部アプローチ断面（主に四腔）による各種病態の診断
- 10分 closing remarks

受講対象者：心エコー検査初心者

	氏名	所属
ディレクター・コーディネーター	山田 博胤	徳島大学地域循環器内科・超音波センター
ディレクター・コーディネーター	亀田 徹	安曇野赤十字病院救急科

2 ハンズオン 腹部 7月28日(土) 13:10-16:40 (3:30)

コース名：腹部

基本的には急性腹症におけるトリアージを想定しているが、急性腹症の原因臓器と疾患は多岐にわたるため、必ずしもRUSHのようなシンプルなプロトコルでカバーすることは容易でなく、本来は病歴と身体所見から推定した診断仮説に基づきその目的臓器を描出するというのが理想的なPOCUSと考えられる。これらを鑑み前半は肝・胆膵・腎・脾・消化管・大血管を中心とした描出法をおさらいし、後半は急性腹症で最低限行われるべきプロトコルをトレーニングする。細かな描出法のコツなどに関してはハンズオンの現場で各受講者のレベルや要望に合わせて対応する。

受講対象者：POCUSや救急医療に興味のある医師で、基本的に初級者を対象とする。

	氏名	所属
ディレクター	真弓 俊彦	産業医科大学 救急医学講座
コーディネーター	畠 二郎	川崎医科大学 検査診断学

3 ハンズオン 神経・血管 7月29日(日) 9:00-12:30 (3:30)

コース名：神経・血管系

神経と血管、組織は異なるが、体幹から四肢に分布するときに両者は伴走し、密接な関連がある。超音波での神経の検索・同定には伴走する血管を視標とすることが多いし、また大腿神経ブロック時に大腿静脈で深部静脈血栓症（DVT）を診断したなどの報告も聞かれる。今回の神経系HOTは整形・麻酔科領域で非常に浸透している超音波ガイド下末梢神経ブロック（上肢、下肢）とした。この手技を手術室外（救急外来など）で行うことができ、直ぐに患者の疼痛管理また治療に役に立つ。また上肢で正中神経の走行を把握できれば、血管穿刺時の神経障害のリスクも減る。血管系HOTはIVC計測とDVT検索とした。両者の診断技術は、ショック診断に非常に有用である。IVC径は体内血管内容量の指標の一つであり、またFluid responsivenessの評価にも最近使われている。DVT検索・診断は在宅から手術室まで、ショックの予防から診断まで多種多様に用いられている。このHOTを通じて、神経血管系POCUSを確実に学んで、臨床に役立てて欲しい。

受講対象者：超音波を用いた診療の初学者

	氏名	所属
ディレクター	野村 岳志	東京女子医科大学 集中治療科
コーディネイター	児玉 貴光	愛知医科大学 災害医療研究センター

4 ハンズオン 運動器 7月29日(日) 9:00-12:30 (3:30)

痛みを取り去る超音波ガイド下注射の基本

局所の痛みは局所の治療で治す、そのための必須手技が超音波ガイド下注射です。従来の盲目的注射と異なり、適応が大関節から小関節、さらには指先の末梢神経にまで広がり、注射針も極細30Gの使用が可能になっています。超音波ガイド下注射の基本となるポジショニング（in line, out of line）、針刺入法（in plane, out of plane）、針先の向き（bevel up, bevel down）を理解し、正確・確実な注射手技のコツをマスターしていただきます。さらに標的をどのように決めるのか、病歴聴取のポイント、臨床所見の取り方、症状誘発テストの実際についても解説します。

受講対象者：運動器診療に関わる医師

	氏名	所属
ディレクター・コーディネイター	皆川 洋至	医療法人城東整形外科

5 ハンズオン 頸部 7月29日(日) 13:40-17:10 (3:30)

コース名：頸部の痛みを超音波で診る

頸部の痛みをきたす病態にはさまざまなものがあり、頸部の痛みを診る場合、多方面からアプローチする必要があります。また、診断と治療を同時に考えなくてはならない場面が非常に多い領域といえます。頸部の痛みを取り扱う各領域のエキスパートの先生を講師とし、頸部痛に対する超音波を用いたアプローチと実際の手技についてハンズオンを行います。頸部痛の知識を持つことは、医療に携わるどの領域においても、どの職種においても非常に重要であり、POCUS研究会ならではのハンズオンになります。

受講対象者：POCUS研究会員

	氏名	所属
ディレクター・コーディネーター	古川 まどか	神奈川県立がんセンター 頭頸部外科

6 ハンズオン 肺・気道 7月29日(日) 13:40-17:10 (3:30)

コース名：肺・気道ハンズオン

目的と内容：肺は従来超音波検査では検出できないとされてきましたが、現在では、LancetのARDSの総説の中に登場するに至っています。呼吸不全患者にも適用できる基礎を身に着けるため、基本画像の描出、病的所見の確認を行います。気管挿管の確認のための気道超音波検査は、蘇生ガイドライン2015の中でも取り上げられています。短時間で判断できますが、手法は意外と知られていません。基本画像の描出ができることを目的に講義と実習を予定しています。

受講対象者：肺気道超音波検査に関心を持ち臨床応用を目指す医療従事者

	氏名	所属
コーディネーター	福原 信一	兵庫県立淡路医療センター小児科